

早く見つけるには「がん検診」が大事

がんは、小さいうちは痛みなどの自覚症状がほとんどありません。早期に発見できれば、約9割の人が治ると言われています。そのため、定期的な「がん検診」で検査を受けることが大切です。

がん検診の結果、がんの疑いがある人には、更に詳しい精密検査をします。しかし、山梨県は精密検査を受けない人が多くなっています。将来、がん検診で「要精密検査」と言われたら、必ず精密検査を受けましょう。

国が推奨しているがん検診の対象年齢と検診間隔

検診の種類	胃がん検診	大腸がん検診	肺がん検診	乳がん検診	子宮頸がん検診
検査方法	胃部X線検査 胃内視鏡検査	便潜血検査	胸部X線検査	マンモグラフィ	細胞診
対象年齢	50歳以上の男女	40歳以上の男女	40歳以上の男女	40歳以上の女性	20歳以上の女性
受診間隔	2年に1回	年1回	年1回	2年に1回	2年に1回

※当分の間、胃部X線検査については、40歳以上、年1回の実施もできます。

出典：文部科学省「がん教育推進のための教材 補助教材」

周りにがんの人がいたら？

もし家族や友だちががんになっても、その人は前と同じ、その人のままです。がんになった人の多くは、前と同じように話しかけてほしいと思っています。

がんのことを正しく知り、みんなで助けあいながら、一緒にくらしていける社会をつくっていきましょう。



知ってみよう！

がんのこと

みなさんは「がん」についてどのくらい知っていますか？



「がん」は日本人が亡くなる原因の1位で、一生のうちに**2人に1人**が「がん」となるという身近な病気です。

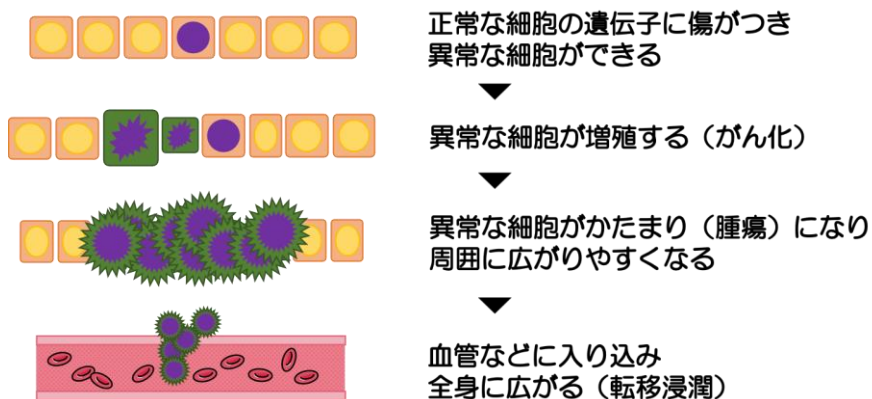
将来、みなさん自身やご家族が「がん」になる可能性は少なくありません。

「がん」について、正しく知り、自分や身近な人の健康について考えてみましょう。

「がん」ってどんな病気？

私たちの体は約37兆個の細胞できており、毎日分裂を繰り返して新しくなっています。この細胞分裂の際、正常な細胞の遺伝子に傷がつき、異常な細胞のかたまり（悪性腫瘍）ができることがあります。これを「がん」と呼びます。

健康な人の体でも毎日多数のがん細胞が発生していますが、通常は免疫がそれらを退治しています。しかし、年をとるなどして免疫が弱くなると、がん細胞がどんどん増え続け、周りの組織に広がったり、血管などを通じて他の臓器へ移動（転移）したりします。



がんの治し方は？

がんの治療の主なものは「手術療法」「放射線療法」「薬物療法」の3つです。がんの広がり具合や患者さんの状態・希望によって、どんな治療を行うか決めます。



手術療法

メスやレーザーでがんの部分^①を体から取り除く方法です。



放射線療法

体の外側から放射線をあてて、ダメージを与えます。



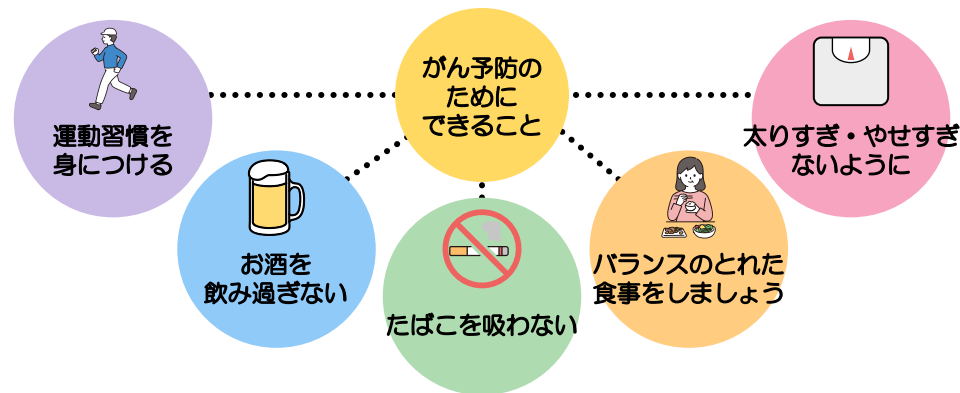
薬物療法

抗がん剤という薬でがん細胞を攻撃します。

がんにならないために

がんの原因は、生活習慣や細菌・ウイルス感染、生まれつきの体質など様々です。

体によい生活をする^①こと、病気にかからないように気をつける^②ことを心がけると、がんになる可能性をへらすことができます。



ワクチンで予防できる子宮頸がん^{けい}

子宮頸がんは、女性の体にある子宮の入口にできるがんです。20代から患者が増えはじめる若い人に多いがんです。

子宮頸がんの原因のほとんどは、HPV（ヒトパピローマウイルス）の感染です。HPVワクチンを接種することで子宮頸がんの原因となるHPVの80～90%を防ぐことができます。

HPVワクチンは、小学校6年生～高校1年生の女の子は無料で接種することができるため、接種について家族と話してみましょう。

9価ワクチン（シルガード®9）の一般的な接種スケジュール

